

2023 年度 MS 自己点検・評価報告書

構成: 報告書(本資料)・各部署自己点検報告書

I はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況の自己点検・評価を実施している。2021 年度からは、これまでの「MS-26 戦略プラン」の進捗状況を点検・補完するために、より重点を置く目標達成のための具体的内容を、「中期事業計画」として改めて明確化した。本報告書は当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめることで、本学全体の内部質保証体制のチェック機能を担っている。

II 本報告書 作成から活用までの流れ

【3 月】各部署は年度当初に策定した事業計画に対し、自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として総合企画部に提出。

【5 月】総合企画部にて事業内容を確認。自己評価を参考に、「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに「実績・長所」及び「課題」を取りまとめた。

【6 月-】学長スタッフ会議・大学評価委員会、大学協議会、常勤理事会で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

III MS ドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した C. 取り組みはしたが改善していない D. 十分に取組みせず改善していない

MSドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		判定不可		総計
		事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	
大学	01-1: 人材の確保と育成／学生	45	38%	53	45%	14	12%	7	6%	0	0%	119
	01-2: 人材の確保と育成／教職員	38	38%	54	53%	4	4%	3	3%	2	2%	101
	02-1: 教育の充実／学びの促進	64	29%	143	64%	13	6%	2	1%	0	0%	222
	02-2: 教育の充実／大学院	30	27%	62	56%	16	15%	2	2%	0	0%	110
	02-3: 教育の充実／学生支援	20	29%	43	62%	3	4%	3	4%	0	0%	69
	03-1: 研究の充実／研究推進	9	20%	29	64%	4	9%	3	7%	0	0%	45
	03-2: 研究の充実／国際的研究拠点	5	36%	4	29%	4	29%	1	7%	0	0%	14
	04-1: 社会貢献	21	36%	29	50%	6	10%	1	2%	1	2%	58
	05-1: 組織・経営改革／組織の活性化	17	35%	26	53%	2	4%	2	4%	2	4%	49
	05-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上	5	21%	16	67%	2	8%	1	4%	0	0%	24
	05-3: 組織・経営改革／基盤整備	20	42%	24	50%	3	7%	1	2%	0	0%	48
	小計	274	32%	483	56%	71	8%	26	3%	5	1%	859
高校	01: 人材の確保と育成	4	80%	1	20%	0	0%	0	0%	0	0%	5
	02: 教育の充実	5	83%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	6
	03: 社会貢献	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2
	04: 組織・体制整備	3	75%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	4
	小計	14	82%	3	18%	0	0%	0	0%	0	0%	17
総計	288	33%	486	55%	71	8%	26	3%	5	1%	876	

%は四捨五入により合計 100%とならない場合がある。

【大学】

1-1: 人材の確保と育成／学生

(1) 実績・長所

- ・優秀な人材確保に向けて、各学部で入試形態別の在学生成績分析を実施した。
- ・入試情報サイトのコンテンツ拡充、SNS を用いた戦略的広報の展開及びオンライン相談会の定期開催等、入試広報を強化した。
- ・2024 年度入試から、K方式の導入学部の拡大及び入学試験検定料割引制度を導入した。
- ・2025 年度入試に向けて、公募制推薦の選抜方法の見直しを行った。
- ・オープンキャンパスを学年の入場制限及びプログラムごとの事前予約を不要にして実施した。
- ・留学生増加に向けて、学外での留学生向けの進学相談会への参加及び日本語学校の留学生を対象としたキャンパス見学会を実施した。

(2) 課題

- ・受験情報 WEB サイト等各種媒体を通じて接触した受験生に対するより質の高い情報提供方法の検討。
- ・東海地区以外からの出願者の増加見込みのある地域での広報強化。
- ・各種入試方式における効果・課題の検証。
- ・留学生確保に向けた広報及び入試制度等の具体的施策の企画・実行。
- ・学齢人口の減少を踏まえ、志願者の質と量の確保方法の検討。

1-2: 人材の確保と育成／教職員

(1) 実績・長所

- ・「FD・SD フォーラム」(オンライン)において、本学の全学的課題とした「大学生の授業外学習時間について考える」をテーマとし、事例報告では本学 WebClass の活用を含めた主体的な学びの取組事例を紹介した。
- ・全学の FD・SD 共通テーマとして「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」を設定し、各学部における FD 活動を推進した。
- ・大学評価委員会及び各学部を中心とし、評価項目の見直し等、教員業績評価制度の改善を実施した。
- ・研修効果を高めるため、4 か年計画の事務職員研修を新たに立案した。
- ・専門人材を採用し、各部署の機能強化を推進した。
- ・特任助手制度を見直し、令和 6 年度から各研究科特任助手定員を柔軟化することとした。

(2) 課題

- ・ポリシー実現に向けた教員組織編成の維持充実を継続。
- ・FD 参加率を向上させるとともに、ICT を活用した授業形態についてのスキルアップの取組を実施。
- ・大学運営に関する教員向け SD の実施。

2-1: 教育の充実／学びの促進

(1) 実績・長所

- ・教育改善の活用に向けて、成績及びアンケート等の IR データをダッシュボードとして作成し、大学評価専門委員会を通じて各学部・研究科及び教務担当者に提供した。
- ・都市情報学部・情報工学部において、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に対応した教育プログラムを開始した。
- ・上記 2 学部以外にも、2024 年度から全学開講科目として「データサイエンス・AI 応用基礎 I・II」を新たに設

置し、応用基礎レベルの教育を提供することを決定した。

- ・「データサイエンス・AI 入門」科目の修了生に対し、デジタル修了証を発行した。
- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」においてスタートアップ支援及び特別継続支援で 106 件の申請があり 99 件の取組の実施を支援した。参加学生の成長実感(「実感している」「どちらかといえば実感している」の合計)は 95.8%であった。
- ・2024 年 3 月卒業生から、卒業までの学修成果を可視化した「名城大学ディプロマ・サプリメント」の交付を開始した。
- ・客観性の観点から GPA 制度の見直しを図った。
- ・アントレプレナーシップ教育等、社会連携活動を一層活性化させた(各種ワークショップ、他大学・企業等との連携事業等)。
- ・グローバルプラザの年間利用者数が延べ 25,018 名となり、過去最多となった。

(2)課題

- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の各取組実施者へのフィードバックの実施方法の検討。
- ・Enjoy Learning プロジェクトにおける新規取組の採択及び事業達成度向上策の検討。
- ・シラバス等を通じたアクティブラーニング導入授業の増加に向けた検討。
- ・アクティブラーニング促進のための FD 学習会等の開催等、授業外学修時間の増加に向けた検討。
- ・他学部履修及び副専攻制度の利用者数の拡大に向けた検討。
- ・アントレプレナーシップ教育に対する学内の認知度向上及び幅広い教職員・学生との連携の推進。
- ・広報活動等を通じて、留学生の受け入れ及び学生の海外派遣の増加に向けた検討。
- ・学生の授業外学修時間の増加に向けた方策の検討。
- ・大学評価プロセスへの学生参画方法の検討。
- ・授業改善アンケートの見直しの検討。

2-2:教育の充実／大学院

(1)実績・長所

- ・大学院の定員充足等を目的とした、大学院活性化 WG を設置し改善案を記載した答申を行った。
- ・修了時アンケートを実施し、成績やアンケート等の IR データをダッシュボードとして作成し、大学評価専門委員会を通じて、研究科にフィードバックし、教育改善のエビデンスとして活用した。
- ・大学院生を対象とした就職ガイダンスを実施し、その中で、長期・有給インターンシップのマッチングを行う「ジョブ型研究インターンシップ推進協議会」について案内を行った。

(2)課題

- ・各研究科において定員充足に向けた志願者確保の検討。
- ・コースワーク及びリサーチワークの検証。
- ・大学院活性化 WG において検討された事項への対応。

2-3:教育の充実／学生支援

(1)実績・長所

- ・障がい学生を対象にした「キャリアガイダンス&仕事理解セミナー」を開催した。
- ・3 年次対象のキャリア支援面談において、学生の自己理解を深めるために学修ポートフォリオを活用した。
- ・「名城大学チャレンジ支援プログラム」の 6 期生として 31 名を選抜し、アメリカ及びカンボジアでの海外研修等

を実施した。

- ・学生のアントレプレナーシップ養成を目的として、人材育成プログラム「EXPLORER」、農学部と連携した学部主体の教育プログラム、高校生向け教育プログラム等 12 件を実施、延べ 314 名の学生が参加した。
- ・起業活動促進拠点「M-STUDIO」を活用し、「EXPLORER ベーシック・アドバンスト」、「AI・IoT 人材育成プログラム」、「社会課題起業家トークイベント DONUTS」を開催した。

(2) 課題

- ・課外学生生活動への支援の充実。
- ・退学防止に向け、学修指導面談等を通じて、学生一人一人の状況の正確な把握及び適切な助言や支援の検討。
- ・リメディアル教育を通じた学習意欲の向上及び留年・退学率低減の検討。

3-1: 研究の充実／研究推進

(1) 実績・長所

- ・研究力向上のため、研究 DX (デジタルトランスフォーメーション) の実施計画を策定した。
- ・研究 DX を推進し、本学で日々生み出される研究データに、大学が機関としての責任をもって対応するため、「研究データ(管理・利活用)ポリシー」を策定した。
- ・外部研究資金獲得に向け、申請説明会の開催、ハンドブックの作成、アドバイザーによる申請書作成支援等を実施した。
- ・国際的な論文引用数の増加に向け、アメリカ科学振興協会が運営するオンラインニュースサービス「EurekAlert!」において、本学の先端研究の成果を発信した。
- ・研究推進支援を担う専門人材である URA を中心に、学外競争的資金の獲得支援、企業とのマッチング、知的財産管理、産官学連携・研究支援サイト(MRCS)での研究成果の発信、カーボンニュートラル研究推進機構下での研究支援等、産官学連携活動を促進した。
- ・本学の研究力と研究シーズを広く社会に発信し、共同研究など新たな産官学連携のきっかけづくりを目的とするリサーチフェアを、本学初となるバーチャル空間のオンライン展示会にて開催した。
- ・名城大学発スタートアップ起業説明会を開催した。
- ・京都大学高等研究院の森和俊特別教授が本学薬学部特任教授に就任した。

(2) 課題

- ・各種展示会、銀行の技術相談会への出展、リサーチフェアの開催を通して本学研究シーズと外部ニーズのマッチングの促進。
- ・本学の研究シーズの情報発信として、学術研究支援センターWEB サイト(MRCS)のコンテンツの充実。
- ・申請書作成の支援等を通じた科学研究費の申請件数の増加に向けた検討。
- ・起業環境の整備。

3-2: 研究の充実／国際的研究拠点

(1) 実績・長所

- ・研究ブランディング事業終了後も採択済 2 事業を継続し、本学の特色として総合研究所の領域指定研究センターで推進した。
- ・メディカル AI 研究センターを新たに設置した。

(2)課題

- ・国際的な研究交流のニーズを踏まえた国際的な研究体制の整備についての検討。

4-1: 社会貢献

(1)実績・長所

- ・社会連携事業において、学内と連携相談のあった地方自治体及び企業等を含む学外とをマッチングする活動を推進した。
- ・地域連携講座を親子向け、社会人向け、オンライン形式、対面形式等の多様な方法・ターゲット・テーマで開講した。
- ・専攻科の指定管理法人第2期の2年目は、海外の大学との交流等、専攻科生の国際感覚を醸成した。

(2)課題

- ・社会連携活動の学内における認知度の向上及び正課教育との連携。
- ・地域及び社会ニーズへの対応、講座等への集客につながる効果的な広報の検討。
- ・専攻科において、推進してきた国際化の更なる発展のための検討。

5-1: 組織・経営改革／組織の活性化

(1)実績・長所

- ・第3期認証評価結果の検証を行い、指摘事項への対応について検討を行った。
- ・競争的補助金事業である私立大学等改革総合支援事業では、全学協力のもと要件充足に向け取り組み、全4タイプ中2タイプでの採択に至った。
- ・理工学部及び農学研究科で適正規模を考慮した収容定員変更を決定した。
- ・事務用パソコン等のシステムを更改し、DXを可能とするネットワーク環境・ICT機器を整備した。

(2)課題

- ・第4期認証評価における「学生の意見の取り入れ」等の新たな項目への対応。
- ・中期事業計画の進捗状況の点検、また必要に応じた計画見直しの実施。
- ・志願者獲得に向けた戦略的入試広報の継続実施。
- ・社会情勢及び学生ニーズを踏まえた改組の実施。
- ・ICT戦略骨子に立脚した大学全体のDX化の推進。

5-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上

(1)実績・長所

- ・株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した、高校3年生が選ぶ「志願したい大学ランキング」において、7年連続で東海エリア1位を獲得した。
- ・朝日新聞社と共催し、「実行・実現できる人材とは～創造型実学とアントレプレナーシップ教育～」をテーマとする講演会を開催した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、卒業式が中止となった2019年度卒業生を対象に、ホームカミングデーを開催した。
- ・カーボンニュートラル推進プロジェクトにおいて各部会の進捗状況を踏まえたウェブサイトの更新を行い、本学のカーボンニュートラル推進に係る取り組みを広報した。
- ・開学100周年事業特設サイトにおいて、WEBコンテンツを発信した。

(2)課題

- ・大学ブランディングに資するコンテンツ及びニュース配信の継続、若年層の閲覧推進策の検討。
- ・名城社長会及び企業会と本学との連携の推進。

5-3:組織・経営改革／基盤整備

(1)実績・長所

- ・常勤理事に対し、私立学校法改正を契機としたガバナンス体制の変更及び寄附行為改正を提案した。
- ・名古屋市とふるさと納税制度を活用した大学への寄附制度を新たに構築した。
- ・2025年度から学費を改定することを決定した。
- ・収入増加策及び支出削減策の達成に向けた取組を実施した。
- ・100周年事業委員会を中心とし、諸活動を推進した。
- ・天白2・3号館解体が完了し、開学100周年記念アリーナ及びクラブハウス棟を着工した。
- ・WEB規定集のシステム更改を実施した。

(2)課題

- ・中期事業計画に基づく各種事業の進捗管理の推進。
- ・収支改善に向けた諸活動の推進。
- ・関係部署と協力し補助金増加に向けた取組の推進。

【高校】

1:人材の確保と育成

(1)実績・長所

- ・志願者数は6,117名(前年比102%)、入学者数714名となり、学則定員を確保した。
- ・志願者数は22年連続で愛知県1位。

(2)課題

- ・戦略的入試広報の強化。

2:教育の充実

(1)実績・長所

- ・到達度テストを用いて生徒一人ひとりの基礎学力の到達度を個別にかつ網羅的に測り、苦手箇所にあわせた課題を個別配信した。
- ・海外研修等では複数の教科担当が協働して事前事後指導を行い、現地での観察の視点や理解を深めた。
- ・探究活動行事「名城探究Day」を生徒主体で運営し、社会人等を助言者として46名招聘した。
- ・正課プログラム(25件)に加えて、アントレプレナーシッププログラムなど20件の課外プログラムを実施した。
- ・電気・水道・ガス・紙等の使用料を毎月前年比較し、生徒の目に見える場所に掲示し、啓発活動を行った。

(2)課題

- ・各プログラムと教科との連携強化。
- ・語学だけでなく国際理解の視点を育成と更なる全校的な広がり。

3:社会貢献

(1)実績・長所

- ・新富のぞみ保育園の避難所となっていたが、水害対策として避難場所を一階からより安全性の高い2階アリーナへ拡大した。
- ・生徒防災訓練、生徒防火避難訓練、生徒防災教育、専任教諭防災研修、非常勤講師防災訓練、AED講習実施に向け、防火防災推進委員会を12回開催した。

(2)課題

- ・避難所マニュアルを常に見直し、地域住民への周知徹底の実施。

4:組織・体制整備

(1)実績・長所

- ・課外活動である「アントレプレナーシップ講座」で卒業生を講師として招聘。
- ・文化祭時に附属高等学校の歴史を辿るパネル展示を実施し、多くの在校生が見学した。
- ・ウェブサイト、同窓会と連携し、附属高等学校応援プロジェクトを立ち上げた。

(2)課題

- ・新型コロナウイルス感染症のため中止していた教員による中学校訪問の再開に続き、生徒による中学校訪問の再開。
- ・卒業生で授業、講座の講師を依頼できる方のリスト化。
- ・附属高等学校応援者をつなげ、寄付を継続するための検討。
- ・企業への寄付金呼びかけの検討。

以上